



# 和'S YAMATO

(わずやまと)

## 春号 2015



赤城の千本桜と芝桜

### NHK大河ドラマ『花燃ゆ』

- ・ 明治維新で活躍する英傑を育てた、松陰の松下村塾
- ・ 至誠を貫き通した吉田松陰 弟子の奮起で時代が動く
- ・ 萩城跡 (指月公園)
- ・ 歴史遺産の宝庫・萩城城下町
- ・ 松陰は江戸で生涯を終える  
文と松陰の人物相関図
- ・ 群馬県と楢取夫妻の深い縁

お客様紹介

介護老人保健施設「グリーンヒル与板」様

納入事例紹介

水道用水を利用する小水力発電「新田水道発電所」

名水探訪 御岳溪流

名水探訪

環境省選定

名水百選

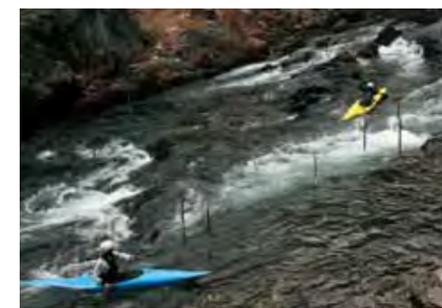
# 御岳溪流

(東京都青梅市)

御岳渓谷は、秩父多摩甲斐国立公園の中でも特に景観が美しい清流として、環境省から日本の名水百選に指定されています。両岸には、約4kmにわたって遊歩道が整備されており、四季折々に変化する自然美を堪能できます。特に春から夏、紅葉の秋には多くの観光客が訪れ、渓谷美を満喫しています。また、御岳渓谷は、カヌーのメッカとしても有名で、全国から若者が集まります。周辺には、高水三山、御岳山があり、登山道やハイキングコースを歩くことができます。



巨岩を縫うような多摩川上流の流れを満喫できます。



厳寒期でもカヌーを漕ぐ姿が見られます。

春から夏、秋の観光シーズンには多くの観光客が訪れます。

### アクセス

《電車でお越しの場合》

- JR青梅線御嶽駅下車すぐ

《お車でお越しの場合》

- 圏央道青梅ICから16km(30分)  
圏央道日の出ICから16km(30分)
- 中央道八王子ICから26km(55分)

### お問い合わせ

青梅市環境経済部環境政策課  
〒198-8701 東京都青梅市東青梅1-11-1  
TEL : 0428-22-1111

<http://www.omekanko.gr.jp/cgi->



# 和'S YAMATO

(わずやまと)

春号(第24号) 2015

「和'S YAMATO」の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

株式会社ヤマト情報誌

和'S YAMATO 2015 春号/2015年3月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

営業所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、神奈川県央、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀

附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、

朝倉工場、教育センター、ヤマトコンタクトセンター

ヤマトホームページ [www.yamato-se.co.jp/](http://www.yamato-se.co.jp/)





松陰神社境内の石碑(親おもふの碑)

松陰が家族に宛てた遺書(安政6年(1859)10月20日付)の中に詠んだ有名な和歌が刻まれている。



松下村塾の講義を再現した展示

実物大の建物が設置され、内部は人形でリアルに再現。  
〔松陰記念館・道の駅(萩往還内) 開館時間：9時～17時・年中無休〕



「花燃ゆ」で描かれる  
松下村塾のワンシーン  
(写真提供 NHK)

「親思ふ  
こころにまさる  
けふの音づれ  
何とさくらん」  
（私が親を思う心よりも親の  
慈愛のほつがまさっている。  
今日の私の死を、親はどんな  
思いで聞くのであろうか）

年号	文の年齢	主な出来事(※は松陰の出来事)
文政11年(1828)		杉百合野之助と滝の長男梅太郎生まれる
天保元年(1830)		※次男虎之助(吉田松陰)生まれる
天保3年(1832)		長女千代生まれる
天保5年(1834)		※吉田大輔の病中仮養子となる
6年(1835) 6月		※吉田家を継ぐ
10年(1838)		次女寿生まれる
11年(1840)		※藩主慶親(敬親)に『武教全書』を進講
12年(1841) 1月(閏)		三女艶生まれる
14年(1843)	1歳	四女文生まれる
弘化2年(1845) 10月		三男敏三郎生まれる
嘉永2年(1849)		※日本海沿岸の防備を視察
3年(1850)		※長崎・平戸・熊本へ遊学
4年(1851) 3月		※江戸へ軍学稽古のために上る
12月		※脱藩。翌年4月にかけて東北を視察
5年(1852) 12月		※藩士の籍を剥奪、家禄没収される
6年(1853) 5月		※四国、関西をへて江戸へ
6月		浦賀にペリー来航。松陰、黒船を見る
8月ころ		寿と小田村伊之助(のち楢取素彦)結婚
安政元年(1854) 3月 3日		日米和新条約締結
3月27日		下田のペリー艦隊に密航を求めが失敗
4月15日		※江戸伝馬町獄に投獄される
9月18日		※萩での塾居を命じられる
10月		※萩に護送、野山獄に投獄
2年(1855) 12月		※野山獄を出獄、杉家にて幽囚
3年(1856)		※松下村塾を主宰
4年(1857) 12月	15歳	文、久坂玄瑞と結婚
5年(1858) 4月		伊井直弼、大老となる
6月		日米修好通商条約調印
8月		戊午の密勅
9月		安政の大獄はじまる

文と松陰、幕末から明治の略年表

年号	文の年齢	主な出来事(※は松陰の出来事)
安政5年(1858) 11月		※間部詮勝暗殺を計画
12月		※野山獄に再度投獄
6年(1859) 5月		※江戸へ護送。7月9日、伝馬町獄へ投獄
10月		※『留魂録』を書き上げる
10月		※伝馬町獄にて斬首
万延元年(1860) 3月		桜田門外の変
文久2年(1862) 11月		※安政の大獄大赦令、松陰復権
3年(1863) 1月 5日	21歳	※松陰の遺骸を若林に改葬
5月10日		長州藩、関門海峡で外国船を砲撃
8月18日		八月十八日の政変、長洲藩、京都追放
元治元年(1864) 7月19日	22歳	禁門の変。久坂玄瑞、自刃
7月23日		第一次幕長戦争(～12月27日)
8月 5日		四国力国連合艦隊、下関を砲撃(～8日)
12月		長州藩、「正義派」「俗論党」間で内戦(～3月)
慶応元年(1865) 8月29日	23歳	父百合之助、病没
2年(1866) 6月 7日		第二次幕長戦争(～9月2日)
12月25日		孝明天皇崩御
3年(1867) 10月14日		大政奉還を申し出る
12月 9日		王政復古
明治7年(1874)	34歳	『留魂録』、楢取に届けられる
明治9年(1876) 10月28日		萩の乱。吉田小太郎、玉木正誼ら戦死。
11月6日		玉木文之進自刃
14年(1881) 1月30日	39歳	楢取寿、病没
15年(1882)		世田谷に松陰神社創建
16年(1883) 5月 3日	41歳	楢取素彦、文(美和子)と再婚
22年(1889)		※松陰に正四位追贈
23年(1890) 8月23日		母滝、病没
40年(1907) 10月 3日		萩に松陰神社創建
大正元年(1912) 8月14日	71歳	楢取素彦、没
大正10年(1921)	79歳	楢取文(美和子)、没



松下村塾の内部 講義室だった8畳の部屋には松陰の石膏像と肖像画、机が置いてある。当時、この地域が松本村と呼ばれていたことから「松下村塾」という名がつけられた。



吉田松陰像  
(松陰記念館の展示品)  
この顔が、松陰に一番似ているといわれている。



松下村塾

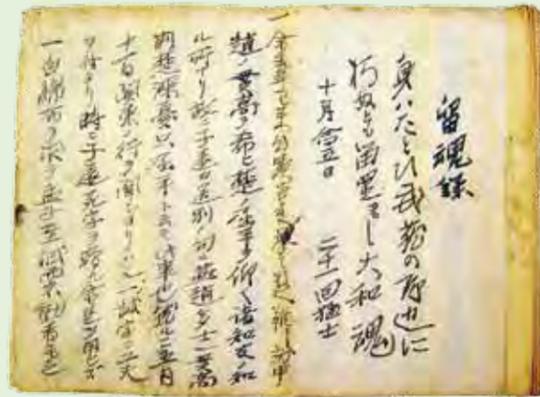
安政四年(1857)11月、塾生が増えたため、杉家の庭にある物置小屋を八畳一間の塾舎に改築し、授業を始めた。身分や階級にとらわれず塾生として受け入れ、昼夜を問わず授業を行い、月謝は無料、余裕のある塾生が持ってくる謝礼と、松陰の実家の杉家が経費を賄ったという。わずか1年余りの間に、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、山県有朋、山田頭義、品川弥二郎など、明治維新の原動力となった志士や、明治新政府で活躍する多くの逸材を育てた。〔国指定史跡〕

NHK大河ドラマ  
吉田松陰の妹 文

2015年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公は、吉田松陰の妹・文。幕末から明治にかけての動乱期に、吉田松陰の高弟だった久坂玄瑞と盟友の楢取素彦の妻となり、奇しくも歴史の渦中に身を置くこととなる。歴史上の人物を陰から支え、時代の変遷を見届けた女性の生涯を描いている。

明治維新が実現したのは、長州藩出身者たちの功績が大きい。吉田松陰が主宰した松下村塾では、わずか二年という短い期間にもかかわらず、倒幕から維新への大きな役割を果たす人材を輩出する。その代表格が、高杉晋作、久坂玄瑞、吉田稔麿、入江九一の高弟だった。安政三年(一八五〇)から、松陰は自宅に設けられた幽囚室(謹慎部屋)で孟子の講義などを行っていたが、これが松陰による松下村塾の始まりとされる。

松陰は、机上の学問にとどまらず、武芸や運動も奨励、軍事訓練を行い、「尊王攘夷」という熱烈な思想に支えられた教えに、若者たちが燃え上がったのである。松陰は、門下生を自分の型にはめようとはせず、知識や経験を出し惜しみないでともに成長し、日本をより良い方向へ導いていこうと考えていた。



「留魂録」の巻頭

松陰は獄中で二冊作り、一冊は萩の門下生に届けられ、もう一冊は牢名主に託された。(松陰神社 提供)



吉田松陰の墓(萩市椿東)

吉田松陰の墓は、松陰誕生地に隣接し、団子岩とよばれる小高い風光明媚な場所に建っている。松陰の没後100カ日にあたる万延元年(1860)2月7日、生家の杉家では百カ忌を営み、護国山団子岩の吉田家墓地に家族や親戚、高杉晋作、久坂玄瑞をはじめ在萩の門人のほとんどが出席し、故人の霊を弔い遺髪を埋葬した。この墓所には、杉百合之助、吉田大助、玉木文之進、久坂玄瑞など一族の墓のほか、門人の高杉晋作などの墓碑が立ち並んでいる。



吉田稔磨生誕地の碑(松陰神社に隣接)

16歳のとき幽室の吉田松陰に入門。熱心に勉学に励み、松下村塾では高杉晋作、久坂玄瑞、入江九一とともに松門の四天王に数えられ、松陰にも愛された門下生だった。元治元年(1864)年、池田屋で密議中に新撰組浪士に襲われた。



伊藤博文旧宅

伊藤博文は松下村塾で学び尊攘運動に参加、文久3年(1863)に井上馨らとイギリスに密航留学する。明治18年(1885)に初代内閣総理大臣となる。



榎取素彦旧宅地

榎取素彦の旧宅地は平成26年(2014)11月に東屋や園路、駐車場が整備され、榎取素彦やゆかりの人々を紹介する説明板や周辺案内図のパネルが設置されている。



山田顕義誕生地の銅像

山田顕義は松陰の最年少の門下生だったという。明治新政府での軍功が顕著で、陸軍中將を務める。伊藤博文内閣では司法大臣に就任。教育を重視し日本大学、国学院大学を創設した。

至誠を貫き通した吉田松陰 弟子の奮起で時代が動く



涙松の遺址(萩市椿)

萩城下から山口へ通じる藩主御成街道から、城下が見える最後の地点。松並木の間から見え隠れする萩を振り返り、別れの涙を流すことから、「涙松」と呼ばれ、松陰の歌で有名になった。



松陰神社宝物殿 至誠館

松陰神社宝物殿は、松陰没後150年となる平成21年(2009)に開館。松陰先生が遺された著述、物品を永久保存を目的とし、それらを展示することを通じて、松陰の思いを現代に伝えている。館内は無料ゾーンと有料展示室に分かれ、無料ゾーンでは松陰の生涯や萩市内のゆかりの地を紹介、有料展示室では、松陰神社に伝わる松陰の遺墨・遺品類を展示。小規模ながら、貴重な資料を間近に見ることができる。



松陰は、幽閉蟄居の身でありながら、日本の政治情勢に敏感だった。それは、江戸に遊学していた玄瑞をはじめ、松陰のまわりには世情を知らせる多くの仲間がいたからだ。松陰は、「飛事長目」という今の新聞のような冊子を作り、世情の動向を観察していた。そんな矢先の、安政五年(一八五八)、松陰は日米修好通商条約締結のことを知り、驚愕するとともに、幕府の専横に激怒する。勅許を得ずに、幕府が外国との条約を結ぶことは天皇の冒瀆であり、断じて許されないと、尊王攘夷の松陰は反幕の決意を固める。

松陰は松下村塾を反幕の砦とし、弟子たちにも幕府と戦うよう指示した。他藩では、勤王の志士たちが尊王攘夷を掲げ、各地で立ち上がった。幕府はその動きを封じ込めようと、「安政の大獄」と呼ばれる志士の摘発・処刑に乗り出した。松陰は、幕府の老中・間部詮勝を暗殺するという過激な計画を練っており、長州藩は松陰の動きを警戒し、再び野山獄に投じるのである。弟子たちは、再び囚われた松陰の身を案じ、幕府と鋭く対立することは藩に逆らうことにもなると諫めるが、松

陰は弟子たちを叱咤し、反幕の戦いを実行するよう再三にわたって書状で呼びかけ続けた。

安政六年四月、幕府は松陰に嫌疑をかけ、江戸への出頭を命じた。萩から江戸に護送される際、松陰は途中の「涙松」と呼ばれる場所で次の歌を詠じた。

思ひさだめし  
旅なれば  
ひとしほ濡るる  
涙松かな

(故郷へは二度と帰れない旅路を思うと、涙松のしずくはさらに私のまぶたを濡らすものだ)

幕府が知っていたのは、すでに捕縛された小浜藩士の梅田雲浜と松陰が共謀していたかどうかであり、松陰が申し開きすれば嫌疑不十分でお咎めなしとなる程度の問題だった。実際に、松陰の疑いはすぐに晴れた。しかし、松陰は取り調べの奉行と話をしているときに、間部の暗殺計画を話してしまう。当時は要人の暗殺を計画しただけで死罪となる時代だった。松陰は、孟子の教えである「至誠にして動かざる者、いまだこれ有らざるなり」を信奉していたので、老中暗殺をもってしても世の中を

変えねばならないとする信念は、幕府の役人にも通じるはずと考えたのかもしれないが、その思いは届かなかった。松陰は安政六年(一八五九)十月、江戸で最大の獄舎・小伝馬町獄に入れられ、死罪を覚悟した。幕府という巨大権力に立ち向かい、死をもって志を永遠のものにしようとした。高杉晋作への手紙の中で、「死して不朽の見込みあらば、いつでも死ぬべし。生きて大業の見込みあらば、いつまでも生きてべし」と、生死が問題なのではなく、志の実現方法を見極めよ、と説いた。自分が死んでも、遺志を継ぐ者たちを信じ、同志に宛てた遺書「留魂録」を処刑の前日に書き上げるのだった。

留魂録の冒頭には、松陰の強烈な願いが込められた和歌が載っている。

身はたどひ  
武蔵の野辺に  
朽ちぬとも  
留めおかまし  
大和魂

(たとえわが身が武蔵野の地で朽ち果てても、日本の国を思う私の志は現世にとどめおいてほしい)

松陰の魂の叫びは、弟子たちの心の内に生き続け、明治維新という偉業達成が現実のものとなるのである。

参考文献「吉田松陰とその家族 兄を信じた妹たち」(中公新書)

# 萩城跡 (指月公園)



## 萩城跡(天守閣跡)

萩城は慶長9年(1604)に毛利輝元が指月山麓に築城したことから、別名指月城とも呼ばれている。山麓の平城と山頂の山城とを合わせた平山城で、明治7年(1874)、天守閣、矢倉などの建物は全て解体され、現在は石垣と堀の一部が昔の姿をとどめ、指月公園として整備される。(国の史跡)



## 萩城天守閣の古写真

東西約20.0m、南北約14.5mの規模で、天守閣、二の丸、三の丸と壮大なスケールを誇った萩城の天守閣は、桃山時代初期の様式で、高さ14.5mの白亜5層の壮麗さだったが、明治7年(1874)に建物はすべて解体された。現在は礎石と台座のみ現存。明治初年撮影の写真で在りし日の姿を偲ぶことができる。



## 萩城跡の毛利輝元像

毛利輝元は、天文22年(1553)毛利隆元の長男として生まれ、永禄6年(1563)家督を相続。祖父・元就(三矢の訓えで有名な戦国の武将)の後見を受け、將軍足利義輝の一字を拝領して輝元と称する。



## 榎取素彦寄進の井戸

明治12年(1879)に志都岐山神社が創建された際、当時群馬県令だった榎取素彦が寄進した。

「萩城跡・萩城下町エリア」  
おすすめ観光ルート

- ①萩博物館 ↓徒歩3分
- ②北の総門 ↓徒歩1分
- ③旧益田家物見矢倉 ↓徒歩2分
- ④旧周布家長屋門 ↓徒歩11分
- ⑤萩城跡(指月公園) ↓徒歩4分
- ⑥旧厚狭毛利家萩屋敷長屋 ↓徒歩4分
- ⑦天樹院墓所 ↓徒歩3分
- ⑧萩城下町 ↓徒歩10分
- ⑨平安橋 ↓徒歩6分
- ⑩堀内鍵曲 ↓徒歩1分
- ⑪口羽家住宅 ↓徒歩7分
- ⑫問田益田氏旧宅土塀



**志都岐山神社** 萩城跡、指月公園内にある神社。かつての県社で、毛利元就、隆元、輝元、敬親、元徳を5柱として、初代から12代まで萩藩歴代藩主が祀られている。



**旧益田家物見矢倉** 武器を収納する倉を矢倉といい、天井が高く見張り台も兼ねたものは物見矢倉と呼ばれていた。高さ1.8mの石壁の上から、北の総門を通る人の出入りを見張っていた。

旧周布家長屋門 旧三の丸の北の総門筋にある長屋門。江戸時代中期の代表的な武家屋敷長屋の様式を色濃く残しており、木造平屋建て本瓦葺きの長い建物が特徴である。周布家は、萩藩永代家老益田家の庶流で、石見国地頭職として周布村に住し、周布姓を名乗った。この長屋門は周布家萩屋敷の表門である。(萩市指定文化財)



**天寿院墓所** 萩藩を創設した毛利輝元の墓所。従来は輝元の隠居所で、輝元の没後に菩提寺が建てられたが維新後に廃寺となり、五輪塔形の墓が残った。



**問田益田氏土塀** 延長231.7mの土塀で、市内に現存する土塀のなかで最長。当時この地に白塗りの土塀を巡らせた萩藩重臣の屋敷が建ち並んでいた面影を今も残している。



**口羽家住宅** 口羽家は石見国を領し、関ヶ原の役後は毛利に従い萩に移る。口羽家住宅は現存する屋敷として最も古く、かつ全国的にも比較的数量の少ない武家屋として価値がある。その表門は江戸桜田の藩邸の門を下賜されたもので、萩に現存する武家屋敷のなかでも最大の規模。(国の重要文化財)



**北の総門** 脇戸付きの切妻造り本瓦葺き、柱間約6m、高さ7mの日本最大級の高麗門。平成16年11月に、「萩開府400年」を記念して復元された。本柱や「冠木(かぶき)」と呼ばれる横材などは、樺(けやき)の巨木を使って復元されている。

## 萩城址 散策ガイド

萩では、日常生活の中に文化財が共生しています。街歩きが文化財めぐりになる貴重な場所となっています。



**堀内鍵曲** 鍵曲(かいまがり)とは、左右を高い土塀で囲み、道を鍵の手(直角)に曲げた独特な道筋を指す。城下町特有の街路を現代にそのまま残している。



**旧厚狭毛利家萩屋敷長屋** 厚狭毛利家は、毛利元就の5男元秋を祖とし、毛利氏の萩移封後、厚狭(現山陽小野田市)に知行地を与えられたことから、このように呼称された。萩屋敷は約15500㎡の広大な敷地だったが、主屋などは明治維新後に解体され、安政3年(1856)に建てられたこの長屋のみが残る。萩に現存する武家屋敷のなかでも最大の規模。(国の重要文化財)



**田中儀一銅像** 田中義一は、文久四年(1864)に萩藩士の三男に生まれ、日清戦争、日露戦争に従軍。大正七年(1918)には原敬内閣の陸軍相としてシベリア出兵を指揮。のちに政友会総裁に就任し、昭和二年(1927)に首相に就任したが、張作霖爆殺事件の処理を天皇に叱責されて内閣総辞職した。昭和四年没。

# 歴史遺産の宝庫・萩城城下町

旧萩城の外堀から外側に広がる城下町は、町筋は基盤目状に区画され、中・下級の武家屋敷が軒を連ねていた。現在でも町筋はそのままに残り、往時の面影をとどめています。御成道に面して藩の豪商である、江戸屋、伊勢屋、菊屋の商家が並んでいた。

## 菊屋横丁《なまこ壁の商家》



## 江戸時代の意匠、構造を用いた建物が現存



### 旧久保田家住宅

呉服商・酒造業を営んでいた久保田家は、江戸時代の後期に建てられ、主屋・門・塀・離れが旧御成道(おなりみち・参勤交代の際に大名行列が往来した道)に面し、菊屋家住宅と対峙するかのよう立ち並んでいる。幕末から明治前期にかけての建物として、意匠・構造・技術に優れ、酒造業で繁栄した往時の状況もよく伝えており、史跡萩城城下町を構成するきわめて重要な建物。



### 木戸孝允旧宅

維新の三傑と詠われた木戸孝允、別名“桂小五郎”の生家。生まれてから江戸に出るまでの約20年間を過ごした木造瓦葺の2階建ての家は、中に入ると、誕生の間や幼少時代の手習いの書を表装した掛け軸、写真などが展示されている。



### 高杉晋作生誕地と旧宅

幕末の風雲児・高杉晋作の生まれ育った家。現在は、建物の一部を公開している。建物は江戸期より縮小されているが、敷地内には晋作ゆかりの品や東行と号した句碑・産湯の井戸などがあり、当時の面影をよく残している。



円政寺境内に掲げられている天狗の面



### 円政寺

明治維新の立役者である高杉晋作や伊藤博文が勉学に励んだ寺として知られている。寺には、幼い晋作が肝だめしをしたという大きく迫力のある“天狗の面”や、遊んだ木馬(神馬)が残っている。境内には十二支の彫刻が施された珍しい形式の金毘羅社や、県下最大の石灯籠もある。



久坂玄瑞進撃の像 銅像の高さは1.8mで、台座を含めて3m。尊皇攘夷の先頭に立つ若き玄瑞の立像となっており、右手を上げて力強く東を指す、勇ましく凛々しい姿。



### 高杉晋作立志像

銅像は、晋作が明倫館や松下村塾に通っていた20歳頃の若々しく凛々しい顔をイメージしており、両刀を差した羽織、袴の立ち姿。銅像の高さは1.8mで、台座を含めて3m。晋作生誕地と萩城の方角を向いている。

日本の道100選に選定された城下町の雲囲気を残す路地。

## 萩城城下町 散策ガイド

萩城城下町エリアは、国指定史跡に指定されており、周辺は今も江戸時代の地図がそのまま使えるほど、町並みが保存されています。



### 菊屋家住宅《江戸時代の面影が残る貴重な建物》

藩の御用商人を務めていた豪商・菊屋家。屋敷は江戸初期の建築、現存する商家としては最古の部類に属し、400年の歴史がある。主屋をはじめ5棟が国指定重要文化財に指定され、約2000坪の敷地の約3分の1が現在公開されている。また幕府巡検使の宿として本陣の役割も持っており、当時の様子を約20年前に復元し一般公開している。



### 《陣笠と短筒》

江戸時代に使われ、現存する骨董類が多数展示されている。

### 菊屋家住宅の平面図



(案内パンフレットより)



### 菊屋横町

江戸の風情が感じられる屋並みには、萩焼など土産物店が並んでいる



久坂玄瑞誕生地の碑 [MAP①P6]



山県有朋の誕生地の碑 (MAP①P6)





# 群馬県と楢取夫妻の深い縁

## 松陰の形見は群馬県人とともにアメリカへ

明治九年(一八七六)に初代群馬県令(現在の県知事)に就任した楢取素彦は、富岡製糸場を廃場の危機から救うなど、養蚕・製糸業を群馬県の基幹産業にするべく尽力しました。幕末から明治にかけて、生糸は日本からの最大の輸出品で、外貨獲得のための重要物資でした。しかし、輸出に際しては、外国の貿易商社が介在するので、日本側の利益が圧迫されてしまうという問題がありました。この問題を解決するため、新井領二郎(現在の群馬県桐生市出身)は生糸の直輸出に挑み、それを楢取県令が政府からの援助を取りつけ、支援しました。

安らかに眠ることができません。このエピソードは、領二郎の孫の故ハル松方ライシヤワー氏の著書「絹と武士」に書かれています。領二郎は短刀を拝受し、関係者の激励を受けて渡米。ニューヨークを拠点に交渉を繰り返して、領二郎の兄の星野長太郎が開設した水沼製糸所(所在地は現在の群馬県桐生市)を介し、生糸の販売を軌道に乗せ、日米貿易の基礎を築くのです。

松陰は安政元年(一八五四)にアメリカに渡るうとして密航未遂事件を起こしましたが、松陰の熱意はその二十二年後に短刀に託され、日本の悲願であった生糸の直輸入に挑む開拓者魂を持った群馬県人に受け継がれたのでした。



楢取素彦(一八五九〜一九二二)防府天満宮蔵  
旧名は小田村伊之助。田松陰は楢取に全幅の信頼を寄せ、安政六年(一八五九)に江戸の幕府に送りなされた時、楢取に松下村塾を託した。明治九年(一八七六)群馬県初代県令、その後元老院議員に就任。同一十年には男爵に叙せられた。



楢取県令夫人・寿子様を偲ぶ会で寿子様について語り合う  
(主催:ぐんま「花燃ゆ」プロジェクト推進協議会)  
左から手島仁前橋市歴史文化遺産活用室長、楢取家五代当主の楢取能彦氏、西蓮寺の興善雄道住職、清光寺の高橋番也住職。平成27年1月31日に前橋テルサで開催。寿子様の命日の1月30日に合わせて行われました。後方の絵は、新井領一郎が寿子様から松陰形見の短刀を渡される場面を描いています。(写真提供 上毛新聞社)



関係者席から偲ぶ会に参加していた寿後の優香さんが挨拶しました。



楢取寿肖像写真  
晩年に撮影されました。西蓮寺群馬県藤岡市所蔵。写真は2枚しかなく、貴重な写真の一枚が寺にあるので、こちらから寿の信心深さが伺えます。

# ぐんま花燃ゆ 大河ドラマ館に行ってみよう

群馬県庁昭和庁舎を会場に、ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館が開館しています。主な展示物は、ドラマの時代背景や登場人物の紹介、あらすじを綴ったパネル展示をはじめ、出演者のサインや群馬県令執務室の再現などで、「花燃ゆ」をより二層楽しめる内容となっています。



再現された県令室で笑顔の大沢たかおさんと優香さん。(写真提供 上毛新聞社)



ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館のオープンに際してのテープカット(平成27年1月10日)(写真提供 上毛新聞社)

## 初代県令・素彦と文 ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館

2015年1月10日(土) ~ 2016年1月31日(日)  
9:00~17:00 (最終入場16:30)  
昭和庁舎点検日にあたる11月14日(土)、15日(日)は休館となります。  
群馬県庁昭和庁舎2階(前橋市大手町1-1-1)

●ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館 入場料金

種別	区分	当日券	備考
一般入場券	大人	500円	有料入場者20名以上の構成団体に適用する
	子ども(小・中学生)	200円	
一般団体割引入場券	大人	400円	
	子ども(小・中学生)	160円	
特別割引入場券	大人	400円	※高校生以上は大人とする ※求道数字は無料 ※障がい者手帳提示で特別割引を適用 ※ぐんまバスポート及びぐんまシニアバスポート提示で特別割引を適用 前橋市文化スポーツ観光観光課提供
	子ども(小・中学生)	160円	

花燃ゆ 日曜日 [総合] 午後8時00分~ [BSプレミアム] 午後6時00分~  
土曜日 再放送 [総合] 午後1時05分~



左から 東出昌大(久坂玄瑞)・伊勢谷友介(吉田松陰・寛次郎)・井上真央(ヒロイン 杉 文(美和))・大沢たかお(小田村伊之助(楢取素彦))・優香(杉 寿)・原田泰造(杉 梅太郎(民治))



上段左から 大野拓朗(野村 靖)・栗 潤(入江カヲ)・石丸幹二(周布政之助)・北大路欣也(毛利敬親)・瀬戸康史(吉田稔麿)・劇団ひとり(伊藤博文)  
下段左から 奥田瑛二(玉木文之進)・長塚京三(杉百合之助)・榎み(杉 海)・井上真央(杉 文(美和))・原田泰造(杉 梅太郎(民治))・優香(杉 寿)



前列左から かせせ梨乃(小田村志乃)・松坂慶子(毛利節子)・井上真央(杉 文(美和))・若村麻由美(楢梨美穂)・麻生祐未(金子ツル)  
後列左から 小島藤子(吉田ふさ)・佐藤隆太(前原一誠)・高橋英樹(井伊直弼)・内藤剛志(楢梨泰太)・宮崎香通(入江すみ)



(写真提供 NHK)

岡市の開基 艸香唯道は小野島とともに明治十年(一八七七)藤岡に本願寺の説教所として念仏の道場を開設。明治十三年に清涼山西蓮寺となり、現在にいたっています。素彦の偉業の一つである留置場、刑務所に浄土真宗の教諭師を派遣する事業は、寿の熱心な勧めによってなされたものといわれています。寿は明治十四年(一八八二)に東京で静養中に四十三歳の若さで逝去、東京の青山墓地で眠っています。病に臥せる寿を看病したのは妹の文で、文は素彦の身の回りの世話もしていました。素彦と文は明治十六年に再婚します。素彦は五十五歳、文は四十一歳でした。

## 楢取寿の深い信仰心と素彦の支援

文の母親 滝は浄土真宗の熱心な信者だったので、母の影響で寿も信仰が厚く、自らお堂を建て僧侶を招き、毎月二回の聴聞(法話を聞くこと)を欠かさなかったといっています。

明治七年(一八七四)、寿が三十六歳のとき長州を離れて関東に移住します。夫の素彦が熊谷県(のちの群馬県)の県令となり、家族を同伴する必要があったためでした。素彦とともに群馬に来ると、広島や山口は、浄土真宗の信仰が盛んで、真宗寺院が多数あったものの、群馬県は浄土真宗の寺はほとんどなく、自らが聴聞する寺も近くにはありませんでした。また、当時の群馬県は荒々しい気風だったので、寿は仏教を広めることによって穏和な人心を醸成しようと考えたのか、群馬県に浄土真宗の教えを広めようと行動を起こしました。寿は素彦にも相談し、京都西本願寺の門主、明如上人に手紙を書いて群馬での開教の必要性を訴え、その熱意が通じ、山口から開教使の小野島行薫という僧侶が派遣されました。小野島は前橋を拠点として布教活動を進め、明治十三年四月、寿の悲願であった真宗本願寺派の出張所が開設、後に清光寺となりました。西蓮寺(群馬県藤

お客様紹介

社会福祉法人長岡三古老人福祉会  
介護老人保健施設 グリーンヒル与板様

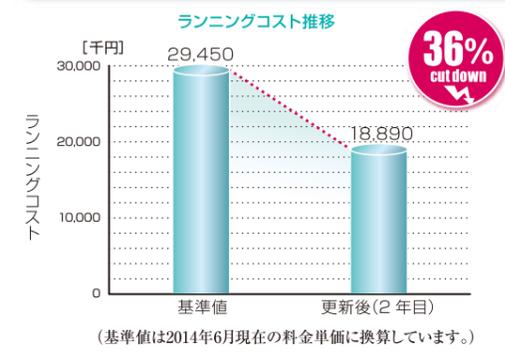
新潟県 長岡市

グリーンヒル与板様では、心温まる雰囲気づくりに目指し、ご利用者様が心地よく生活できる施設となるよう心がけています。  
ご利用者様にご満足いただけるように、全職員が介護サービスの向上に取り組んでいます。ご利用者様及びご家族の声に耳を傾け、ケアの質にこだわったサービスの提供に努めています。

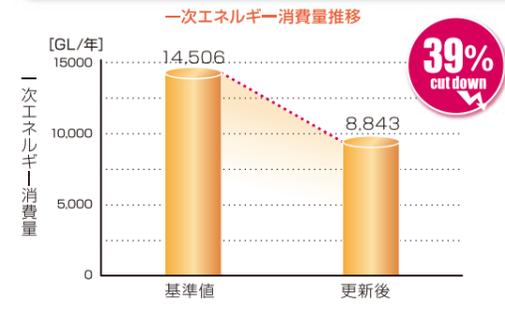
グリーンヒル与板外観

〔建物全体〕

ランニングコスト



一次エネルギー消費量



システム概要

- 建築工事 ガラス及び外壁断熱強化工事
- 空調熱源 高効率大温度差蓄熱空調システム  
空冷ヒートポンプチラー 50馬力×4基
- 空調蓄熱槽 300m<sup>3</sup>
- 給湯熱源 自然冷媒ヒートポンプ給湯システム  
業務用エコキュート20馬力×5基
- 給湯蓄熱槽 20m<sup>3</sup>×2
- 照明器具工事 一部高効率照明器具に更新
- 遠隔監視 ヤマトTASKPLUS
- その他 空調機は既存利用



(写真右)施設管理主任 齋藤文夫さん  
(写真左)事務局長 竹田雅史さん

コメント

今まで灯油を使った空調設備を導入していたので、灯油管理が大変でしたが、その管理が不要になりました、集中管理ができて、建物全体の温度がわかるので、とても楽になりました。既にコスト削減の効果が出ているので、今後の推移が楽しみです。

CO<sub>2</sub> 排出量



施設概要

- 施設名称 グリーンヒル与板
- 所在地 新潟県長岡市与板町横原393-8
- 建物概要 本館:鉄筋コンクリート造 新館:鉄骨造2階建
- 延床面積 8,150m<sup>2</sup>(本館3150m<sup>2</sup>、新館5,000m<sup>2</sup>)
- 用途 介護老人保健施設
- 竣工年月 平成24年9月
- 設計者 株式会社ヤマト
- 施工者 株式会社ヤマト

納入事例紹介

水道用水を利用する小水力発電

新田水道発電所



発電所内の発電設備



発電所がある太田新田受水場



新田水道発電所の外観

発電所の概要

- 設置者 群馬県企業局様
- 水車発電機施工 株式会社ヤマト
- 所在地 群馬県太田市新田多村新田町
- 最大出力 60kW
- 最大使用水量 0.153m<sup>3</sup>/s
- 有効落差 54.97m
- 年間発電電力量 419,000kWh
- 運転開始 平成26年10月1日

(株)ヤマトの環境事業部が施工した水道用水を利用する小水力発電所が稼働中です。この新田水道発電所は、再生可能エネルギーの導入促進を図る「電源群馬プロジェクト」の構成事業として建設されました。みどり市にある浄水池と、新田町にある受水場とを結ぶ「新田山田水道」の高低差を利用します。約90mの高低差の内、利用可能な落差55mを使って水圧で水車を回転させ発電する設備です。  
既設の送水管から発電設備まで分岐させ、50kW以上の電力を安定的に発電し、一般家庭120軒分の年間消費電力を発生させることができます。化石燃料を燃やす発電に比べると、1年間にCO<sub>2</sub>を約160トン削減します。  
この発電施設は次のようなメリットがあります。

- 再生可能エネルギーのため、地球環境に対して負荷が少ない
- 発電時に温室効果ガス(CO<sub>2</sub>など)を発生しない
- 売電収入による水道事業費の削減

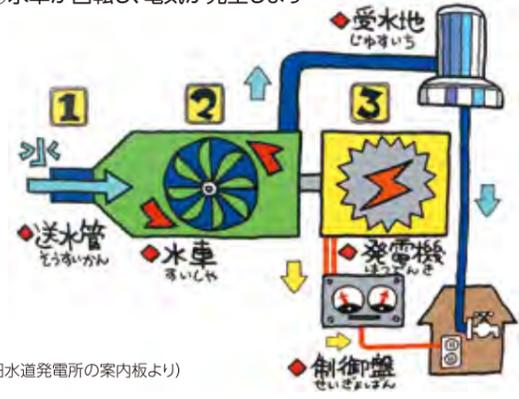
小規模の水力発電は、太陽光発電や風力発電などの自然エネルギー発電に比べると、電気を安定して得られるため、今後の拡大が期待されます。

水道発電所の仕組み

- ①渡良瀬川から取水した水を「み」の新田山田浄水場で浄水します。
- ②「お」の太田新田受水場に送水します。落差は55mあります。
- ③受水場の敷地内にある新田水道発電所で発電します。



- ①送水管から水圧の高い水が水車に流入します
- ②③水車が回転し、電気が発生します



(新田水道発電所の案内板より)